

## 2015 年度海運学会賞「著書の部」

山岸寛 著「海運70年史」 山縣記念財団発行 2014 年 7 月

### 授賞理由

「戦後 70 年」を迎え、これをキーワードとして戦後を回顧し、これからの我が国を考えようとする動きが様々な方面で見受けられる。つい先ごろの国会では、戦後 70 年を節目として出された憲法解釈の重大な変更とそれに伴う国家安全保障法制をめぐって稀に見る激論が交わされた。本書はこうした流れの一環として、我が国および世界の海運の戦後史を回顧し、将来を考究した研究書として公刊された。

本書は三部より構成されている。第一部は 7 つの章から成っており、戦後世界海運における国家政策と船社経営の変遷に着目する。戦後 30～40 年間ににおける英米海運政策の動静をたどる中で、便宜置籍船、船社経営システムの変革、安全航行を巡る規制緩和などの問題を取り上げている。また、国際船舶制度やトン数標準税制といった海運税制による海運競争力強化などの問題を船社のグローバル化と関連付けて論じている。

第二部では 8 つの章を設けて戦後における我が国海運政策の変遷を辿る。まずはじめに、戦時の海運国家管理と敗戦直後の海運管理という非常時と混乱期における日本海運を回顧する。続いて、戦後間もない時期に開始されその後の経済成長に大きく貢献した計画造船制度、当学会でも大きく議論された財務体質および競争力強化のための海運集約を取り上げる。さらに時代を下って、経済成長の結果としての賃金上昇と為替変動によるフラッグイングアウトの広がり、そしてマンニング・コスト上昇による新たな経営戦略と官民挙げての船員配乗制度改革など、各時代の特徴を反映した課題を取り上げている。

9 つの章からなる第三部では、我が国を中心とする海上輸送活動の経時的変化を海運経営の視点から考察する。ここではチャーターバック、仕組船、船員制度近代化、グローバル・アライアンス、国際海上物資流動構造の変化を取り上げている。

本書は戦後 70 年間ににおける日本および世界の海運の足跡を詳細に辿った研究であり、著者の数十年に及ぶ海運研究の成果を集大成したものである。海運の国際競争力を規定する要因には一般に為替変動と船員賃金そして輸送技術水準があるが、それぞれがもつ重要度について深く論じたものはなかった。著者は各要因の重要度に着目し、為替変動に最も大きなウェイトを与えている。近年、国際競争力は為替変動によって大きな影響を受け、その如何によって産業の盛衰が大きな影響を受けることが広く認められるようになった。このことは東アジア各国における最近の競争力変化に象徴的に表れている。

著者は我が国海運における船隊と船員および経営規模の縮小により、かつて経験したことの無い問題を抱えることになったとして、これからの目指すべき方向として経営の多角化と総合物流業への進出を示唆している。そもそも歴史の考察は非常に難しいものであるが、長年にわたって蓄積された著者の豊富な知識と深い洞察力がこれを可能にしている。本書では戦後海運が歩んできた足跡をよく整理して考察されている。

以上述べたところにより、本書は 2015 年度「学会賞（著書の部）」授賞にふさわしい著作と認められる。

日本海運経済学会 学会賞選考委員会